

教師ノート

日付	2011年 7月31日
単元	基本的な教理・1
テーマ	靈感された聖書
タイトル	聖書について - 神さまのことば -
テキスト	Ⅱ テモテ3:15-17
参照箇所	Ⅱ ペテロ1:21、ヨハネ20:31、ヤコブ1:21-22、ヘブル4:12、詩篇19:7、マタイ4:4
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	Ⅱ テモテ3:16

AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)

[小上 2 巻 3 題 1 課](#)

□導入

例:物語でも、マンガでも、それを書いた人(作者)がいますね。「ドラえもん」の作者は誰だか知っていますか?では、聖書を書いた人は誰か知っていますか?

□ポイント1 聖書ってスゴイ!

旧約聖書のうち、早いものは紀元前1400年ごろ書かれたと考えられます。新約聖書は、紀元50~100年ごろの間に書かれました。少なくとも1500年以上にわたって書かれました。それなのに、聖書の中心的メッセージは変わりません。あなたは、平安時代や江戸時代の人と、話を合わせられると思いますか?どうしてそんなことが可能なのでしょうか?それは、著者は神おひとりだからです。

聖書は世界のベストセラーです。年間およそ4億冊が販売・配布され、2200以上の言語に翻訳されています。たくさんの迫害がありつつも、現在まで残ったこと、今でも命がけでみことばを伝えている人がいるという事実も、聖書が神のことばであることの立派な証拠ではないでしょうか。聖書は、旧約39巻・新約27巻、合計66巻の本を合わせたものです(巻物に書かれていた時代がありました)。

☞旧約というのは、古い約束という意味です。律法を土台とした、神とイスラエルの民の関係についての約束です。旧約聖書では、イスラエルの歴史・詩歌・預言をとおして、「やがて救い主が来られる」ということが語られています。新約聖書は、イエス・キリストによる救いを土台とした新しい約束です。「救い主が来られた」(キリストの十字架と復活によって、神さまの救いの計画が成し遂げられた)ということが書かれています。新約聖書があれば、旧約聖書はもう必要ないということではありません。旧約の準備があるからこそ、イエスのすばらしさや、神の救いの計画の真理がよく理解できるのです。

□ポイント2 聖書は、神さまのことばです(3:16)

聖書は異なる時代に生きた約40人の人間によって書かれました。それにも関わらず、聖書66巻の内容や考えのすべてが、始めから終わりまで、1つの筋で通されています。これらはすべて、神の靈感によって書かれました。聖書記者に聖霊が働いて、神さまのことばを書いたという意味です(Ⅱ ペテロ1:21)。例えば、マタイの福音書は、マタイという人が書きました。ですから字を書いたのは人間です。しかし、どんなことを書くかを教えたのは神さまです。聖霊さまが、マタイという人を通して、語ってくださったのです。ですから、聖書は、神さまのことばです。聖書の全部分、ひと文字ひと文字、すべて聖霊によって、神さまの願ったとおりに書かれました。間違って書かれた内容やことばはありません(詩篇19:7)。だから、聖書のどの部分も、すべて大切な神さまのおことばです。

☞ディズニーランドの建物を作ったのは、きっと大工さんたちですね。しかし、みなさんは、ディズニーランドを造ったのは誰か?ときかかれたら、ウォルト・ディズニーと答えるでしょう。大工さんたちに、どんな建物を造るかを、教えたのはウォルト・ディズニーさんだからです。同じように、聖書は約40人の人によって書かれましたが、どのように書くかを教えたのは神さまですから、実際の著者は、神さまです。

☞ 靈感によって…聖霊にあやつられてペンを持つ手が勝手に動いたとか、神の声を速記したとかいうことではありません。聖書記者の考えや記述方法をその人なりの人格的特徴を用いながら、神の願うとおりに誤りなく書かせるようにしたものです(例: 医者であったルカによる記事は、医者らしく、事実を綿密に調べ、順序だてて書かれています)。それぞれの記者は聖霊の感動を受け、導きを受けながら、預言・歴史的資料・教理・体験などを記述していったのです。その際の聖霊の働きは聖書記述のときだけにあらわされた特別なもので、それ以降は起こることのないものです。

□ポイント3 聖書は私たちへのメッセージです(3:15-17)

聖書は、私たちがイエスさまを信じて救われ、永遠の命を得ることができるよう書かれました(15節、参照ヨハネ20:31)。これが、聖書の書かれた目的です。私たちが滅びないように、神さまが愛のメッセージを書き表してくださったのです。「主のみおしえは完全で、たましいを生き返らせ」ます(詩篇19:7)。人はパンだけで生きるのではありません、みことばがないと心が死んでしまうのです(マタイ4:4)。

また、聖書は、私たちがさらに神さまによるこぼれる人に成長するように、私たちに訓練してくれます(16節)。聖書は、神さまが私たちに送ってくださったメッセージですから、その通りに従えば、心が成長し、心が満たされます。それを素直に受け入れ、行なう人になるべきです(ヤコブ1:21-22)。「それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです」(17節)。

□結論 聖書は、神さまが書いてくださった、私たちへのメッセージです

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

- ① 聖書は、神さまの言葉ですから、間違いのない真理です。すなおに信頼して従いましょう、必ず祝福を受けます(詩篇1)。あなたは、お友だちに話しかけられたら返事をしますね?では、神さまがあなたに語りかけ、メッセージを送ってくださっているのに、知らん顔しても平気ですか?礼拝のメッセージは、100%集中して聞こう! みことばを聞いたなら、お祈りで応答しよう。それを行なう人になろう!
- ② いつでも、どこでも神さまのことばを思い出せるように、暗唱聖句にとりくもう! 聖書のことばは生きています(ヘブル4:12)。心に神さまのことばをたくわえておくと、あなたの元気の素になります。悲しいとき、困ったとき、誘惑に負けそうとき、おともだちにイエスさまのことを伝えたいとき、聖霊さまがみことばを思い出させてくださって、必ずあなたを助けてくださるのです。
- ③ 毎日のディボーションにチャレンジしよう! 「こひつじ」のホームページにディボーションノートがあります。始めは毎日できなくても、週に1回からでも、少しずつ回数を増やしていけば、スゴイことです。自分で、神さまのことばを聞けるようになったら、神さまとの関係がグ〜んと深まるよ。ゴハンだって、いつまでもお母さんに食べさせてもらっていないよね。同じように心のゴハンも自分で食べられるようになろう。

【参考】聖書の命令形

聖書は神様の言葉だから、私たちは従っていきます。「~しなさい」という命令形が出てきたら、次の3つのことを思い出すと良いよ。

1. 命令するほどに、それは命にかかわる大切なこと
従っても従わなくても、どっちでもいいよ、ということではありません
2. 神様は私たちを愛しているということ(聖書は神様から私たちへの愛の手紙です!)
私たちがどう生きようと無関心なお方ではありません。愛しているから語られるのです。
3. 従う力をも与えて下さる
神様の言葉に従おうとする人を、聖霊は助けずにはおれません